



No.340
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

ひろがる

今井のそば文化

今井地区の伝統として「そば打ち」の文化があります。地道に行ってきた公民館講座や、地区内の名人の皆様の努力のおかげで、若い世代にも担い手が増えていきます。

こだわりの そば打ち講座

2月24日(日) 14名の方がそば打ち講座に参加されました。3回目ということもあり、皆さん手際よく、先へ先へと作業を進めていました。菊練りも堂に入り、手だけでなく体全体を使ってリズムカ

ルに動きながら仕上げている姿に、思わず見入ってしまう



程でした。「来る度にいろいろ教えてもらっています」「奥が深く、難しいですが自分ですら打ったそばは美味しいです」と、参加者の方々の言葉が返ってきました。

若妻そば打ち講座

2月20日(水)改善センター調理実習室において25名程の参加で若妻そば打ち講座が行われました。

お年寄りだけでなく若いママたちにも、そば打ちの楽しさを感じてもらいたい、技術を広げていきたいと始めたこの講座も3年目になりました。

参加者は小さい子ども連れの若いママが多く、ちよつと若かったママも加わって、マントーマンで段位を持っている

る方々に指導を受け、真剣に耳をかたむけ、立派なそばが出来上がっていました。子どもを抱いたママは「農業の盛んな時は仕事があり、土日は上の子どもが休みなのでなかなか出かけられない



れど、この時期の平日に行われるこのような活動はとても楽しくて、ストレス解消とそばを打つ技術が習得できてブルでうれい」と言っていました。

今後は『発表会食会』にむけて「ユニフォームを揃えたそば打ちの腕を上げていきたい」と今井の若い人の意欲を感じる事ができました。

講師の方々の思い

今井では、昔から各家庭の女衆がそばを打ち、食事の足しにしていた、と聞く。そんな名残もあり、我家の叔母た

ちもそば打ちが上手かった。叔母のレシピを手に入れたところから、私のそば打ちが始まった。叔母に出来て、俺が出来ないはずはない。しかし何年たっても家族は、まじいとは言われないが箸が進まない。全国の名店といわれるそば屋の食べ歩き、長坂の「翁」店主高橋名人のビデオでの研究。そんな日々を重ね15年目に、家族から「今日の十割そば旨いね」の言葉。素直にうれしかった。感動の日からおよそ25年が経つ。



も広がった。後半の人生に充実感を持っていて。今、そば教室等で習っている皆さん

も、自分の求めるそばをゆつくりと楽しみながら技を獲得してほしいと期待している。老いを感じながらも、極上の旨いそばを求めて研鑽を積み、いつか皆さんに食べてい

ただげればと願っている。
〈村山 光利〉

それぞれの家庭で当たり前の様にそば打ちが行われ、その技術が嫁や子に伝えられていた時代があった。それが失われた今でも、そばが大好きで食べたいという人は多い。

3年前から『若妻そば打ち講座』が開催され、多くの若い女性がそば打ちを学び、今年には『発表会食会』を開くまでに育ってきた。彼女たちは『文化祭のそば打ち』や『O MF 歓迎そばパーティー』に仲間と共に携わり、そば



域活性化に取り組んでいる。そば打ちの工程は人を無心にさせる。「そば打ちがなぜ人の心を捉えて離さないのか、そば仲間はなぜ和合するのか」そう問いかけた方がいた。

これからもそば打ち愛好者の拡大と、地域が元気になるような活動を、そば打ち仲間と一緒に進めていきたいと思っている。

〈大瀬 渡〉

ふれあいそば配食

2月3日(日)、今井福祉協議会事業の一環として「ふれあいそば配食」が行われ、70歳以上の一人暮らしの方と、夫婦ともに75歳以上で夫婦のみの世帯の方に、手打ちのそば123食が届けられました。

20数年前から続いているこの事業。今井の遊休農地で栽培されたそばを使い、今井のそば打ち名人やボランティアの皆さんによってそば打ちが行われました。茹で上がったそばには有志の方手作りの卵焼きが添えられました。今井福祉協議会の役員が盛り付けを行い、民生児童委員と町会長が協力して配達しました。

そばを受け取った方の中には、「今日という日を楽しみにしておりました。ありがとうございます。」と、「春の蕎麦すすれば温し 人の愛」と、一句添えて直筆のお手紙をくださった方もいました。

健康講座開かれる

今井福祉協議会健康部会主催による全3回の講座が2月2日、9日、16日(いずれも土曜日)に改善センター東館大会議室で開催され、毎回25

名程が参加しました。

第1回『腰痛予防、解消法』、

第2回『膝痛・肩こり予防、解消法』、第3回『口腔ケア、脳トレほか』をテーマに行われ、講師として相澤病院の専門職の先生方や市保健師、今



井地区体力づくりサポーターの皆さんに指導いただきました。

第2回目では理学療法士の先生が、最初肩こりや膝が痛む原因を説明。その後は、予防・解消のため

つがやま
No.274
「今井の宝」
藤澤みどり(上新田)

今井に越して来て、長女を出産。助産師さんに「キレイな胎盤!!」とほめられました。「いい環境の中で妊婦生活を送られていたんですね」と言ってもらえたことを今でもしっかりと覚えていてます。自然豊かな今井で、美味しく栄養満点の野菜果物を

の正しい姿勢や簡単に組みめる体操・ストレッチ・筋力強化運動の仕方を丁寧に指導してくださいました。

満蒙开拓平和記念館 (阿智村) を訪ねて

2月23日(土)に、今井地区人権啓発推進協議会主催による人権学習視察が行われ、22名が参加しました。

記念館では、政府の政策により「満州国」に送り込まれた移民のうち長野県出身者(特に下伊那)が最も多いこと、またその多く(若い男は徴兵され、婦女子や老人が残っていた)が戦争のさなか、ふるさとへ帰ることなく命を落と



中国残留孤児の身元確認に尽力された前住職の山本慈昭さん(故人)の思い出話(残留孤児の身元捜しは、山本さんひとりの活動からはじまったことなど)をしていただきました。

今回の視察は、戦争や平和について改めて考えさせられる機会となりました。

たらふく食べ、大きな赤ちゃんが生まれました。月日が流れ、その赤ちゃんも小学生になり、主人と2人道を歩いていた時、近くに



たおばあちゃんに声をかけられたことがあります。「お前さん、どこの兄さんかい?」どうやら主人は怪しい人に見られたらしく、おばあちゃんは娘が連れて行かれるんじゃないです。

自然、食べ物、そして人。今井には、宝がいっぱい!!やがて子ども達も成長し、外の世界にも目を向けていくこと

でしようが、いつか恵まれたこの土地で、これからの「今井の宝」にあたたかな気持ちをかけられる人になつて欲しいです。

北風南風

地球から直線距離で約3億キロ離れた大きさ900メートルの目標をを目指すのを、想像で月をかけ、小惑星探査機「はやぶさ2」は小惑星「リュウグウ」へ到着し、タッチダウンしたというニュースが先頃報じられた▼ミッションマネージャーの吉川氏によれば、「日本からブラジルにある6センチの的を狙うのと同様」だという。生命の起源を解明するため、太陽系ができた頃の状態が残る小惑星から岩石片をもちかえることが、重要な任務である▼「はやぶさ」初号機は、エンジンや機体のトラブルなどを克服し、ほんの小さな岩石片の入ったカプセルを地上へ届けることができた。日本は有人宇宙飛行をまだ達成していないものの、国際宇宙ステーションへの荷物の運搬「こうのとり」、月の表面の調査「かぐや」、GPS電波を補完する準天頂衛星「みちびき」など、成功例は多い▼2020年末頃、オリオンピックの余韻もまだ残る地球に帰還する予定となっている。地球上の生命の謎が解明されることのできるか、今から楽しみである。